

# 奥薩摩の未来形成に向けて

令和5年10月より  
河川空間のオープン化指定 本格始動！

鹿児島県さつま町長 上野俊市

## さつま町の概要



鹿児島県  
さつま町

令和7年には、  
町制施行20周年を  
迎えるよ！



施行日：平成17年3月22日  
(旧宮之城町、鶴田町、薩摩町が合併)

面積：303.90km<sup>2</sup>

人口：18,447人 (R6.5.1現在)

環境：標高1,067mの紫尾山を中心とする山々に囲まれ、町を一級河川の「川内川」が貫流する盆地帯。寒暖の差が大きいことで米を中心とする農産物の食味が良く、高い評価を得ている。

# さつま町と川内川



# さつま町をうるおす 川内川



# 川内川にホタルが飛び交う



# 川内川にホタルが飛び交うまちを取り戻す

豪雨で激減 昨年末の調査で幼虫わずか



ホタル再生に向けて発足した協議会の初会合 川内川事務所提供

## ホタル再生へ協議会

さつま町の川内川本流で近激減するホタルの再生に向け、官民で取り組む協議会が21日発足した。初会合が町役場であり、川内川河川事務所が昨年12月に初めて実施した幼虫の生息調査について報告。町内16地点で10軒四方を充分調査したところ、各所の最大観測数は2匹だった。

今後、生息状況の調査も多様な動植物が生きられる環境づくりを目指す。河川事務所の幼虫調査は、ホタル舟の運航区間を含む6地点で実施。二渡地区の1地点で最大2匹、時吉地区は同1匹、神子地区は観測できなかった。カワニナの生息数も調べ、1平方メートルの最大観測数は二渡地区の1地点で79匹だった。17年目の同様の調査では、場所は異なるが同じ二渡地区で、最大約1400匹を確認した。

川内川本流は1級河川でホタルが群舞する場所として全国的に珍しく、ホタル舟も運航しているが、2006年7月の豪雨で激減。幼虫やその餌となるカワニナが流されたことが主な原因とみられ、徐々に回復していたが、21年7月の大雨で再び急激に減った。協議会では上野野町長を会長に、ホタル舟を運航する団体や漁協、有識者ら委員2人で構成。再生に向けた組織づくりは初試みで

初会合では、今季も支流と違い、本流ではほとんどホタルは出ていない現状が紹介された。原因究明に向けて「水流が強まり、環境が変化した」「水流の変化はどうか」といった質問が出された。上野野町長は「さまざまな観点から対策を検証し、長期的な展望を何とかならなければならない」と話した。

(山田大)

## ○ほたる再生プロジェクト協議会

### 1) 設置目的

関係機関団体の相互の協力により、川内川及びその流域の快適な水辺環境を保全・創出し、ほたるを中心とした観光資源を増やす

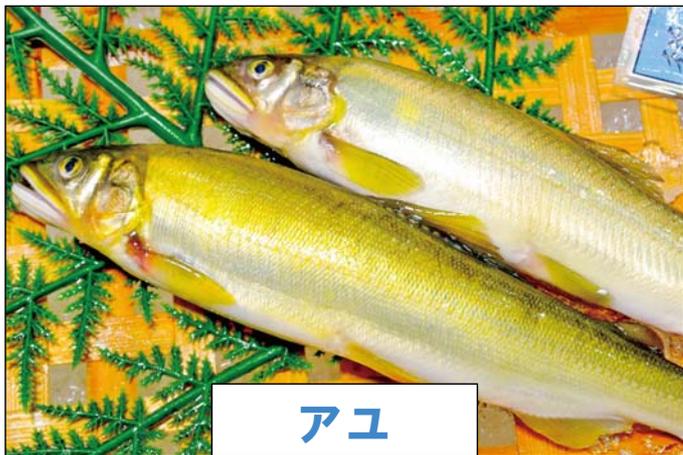
### 2) 協議会委員

- 会長 さつま町長
- 副会長 九州地方整備局川内川河川事務所長
- 委員 九州地方整備局鶴田ダム管理所長
- 電源開発(株)南九州電力所長
- 奥薩摩のホタルを守る会会長
- 二渡がらっばホタルの会会長
- 鹿児島県、学識経験者等

### 3) 今後の取組

- ・河川の状況分析、データ集約
- ・具体的な推進方法検討

# 川内川の恵み



アユ



山太郎ガニ（モクズガニ）



パックラフト



## 鶴田ダムの概要 (九州最大級の多目的ダム)

- 九州を代表する最大級のダム。
- 川内川本川中流に位置し、洪水調節、発電に大きな効果を発揮する。  
(■堤高:117.5m、■有効貯水容量:9,800万m<sup>3</sup> ※九州直轄ダムで1位)



# 再開発前の鶴田ダムの概要

- 平成18年7月に鹿児島県北部豪雨災害が発生。
  - 平成18年10月に河川激甚災害対策特別緊急事業に採択。
  - 平成30年10月に鶴田ダム再開発事業は完了。
- (■洪水調節容量: 7,500万m<sup>3</sup> (再開発前) → 9,800万m<sup>3</sup> (再開発後))

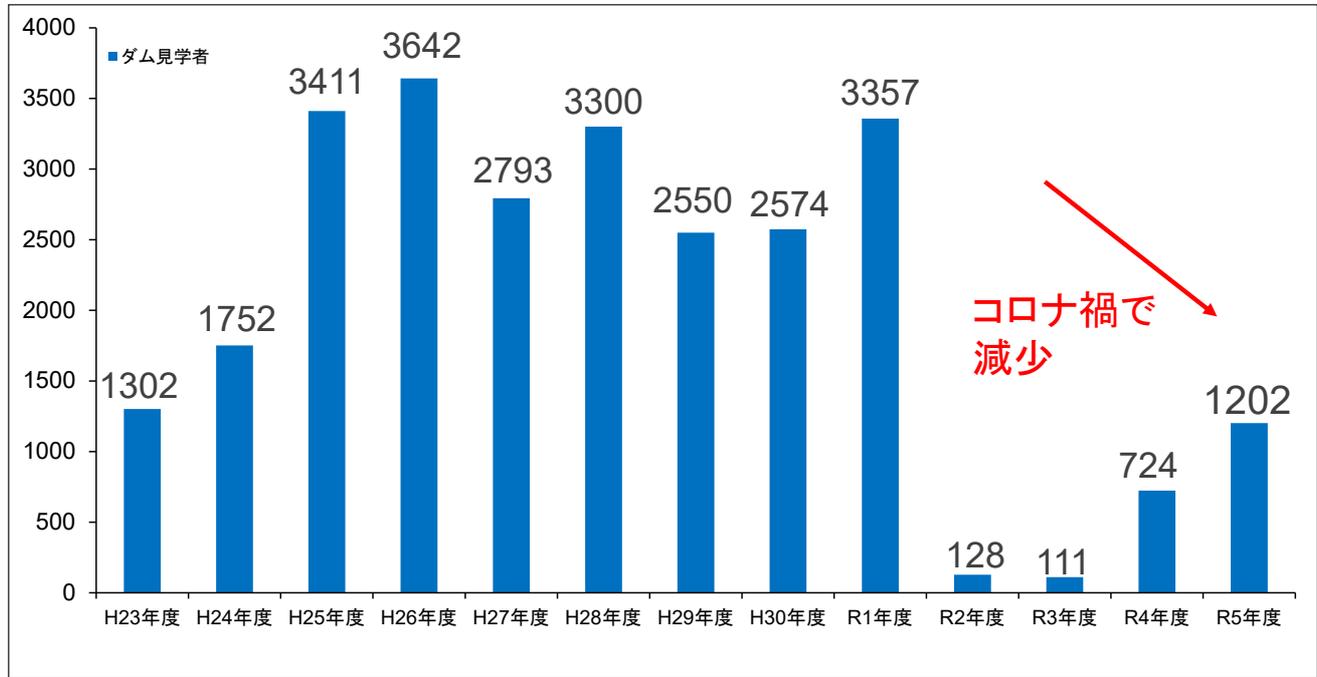


計画放流量2400m<sup>3</sup>/sに対し、約3600 m<sup>3</sup> /sを緊急放流。

# 鶴田ダム公園 桜の名所



○鶴田ダムは、社会科見学など数多くの見学者でにぎわいを見せている。



## インフラツーリズム魅力増進プロジェクト【全国7箇所(令和2年度時点)】

### 令和元年度選定

なるこ  
①鳴子ダム  
【宮城県大崎市】



やんば  
②ハッ場ダム  
【群馬県吾妻郡長野原町】



あまがせ  
③天ヶ瀬ダム  
【京都府宇治市】



くるしま  
④来島海峡大橋  
【愛媛県今治市】



つるた  
⑤鶴田ダム  
【鹿児島県薩摩郡さつま町】



### 令和2年度選定

はくちょう  
⑥白鳥大橋  
【北海道室蘭市】



くさかがわ  
⑦日下川新規放水路  
【高知県高岡郡日高村】



# 川内川大鶴ゆうゆう館（管理者：さつま町）

○奥薩摩の地域振興拠点として川内川大鶴湖ゆうゆう館を運営。

○鶴田ダムインフラツーリズムの拠点として期待。（指定管理者：NPOひっ翔べ奥さつま探検隊）



12

# 鶴田ダム内部に自分の焼酎を貯蔵（有料）

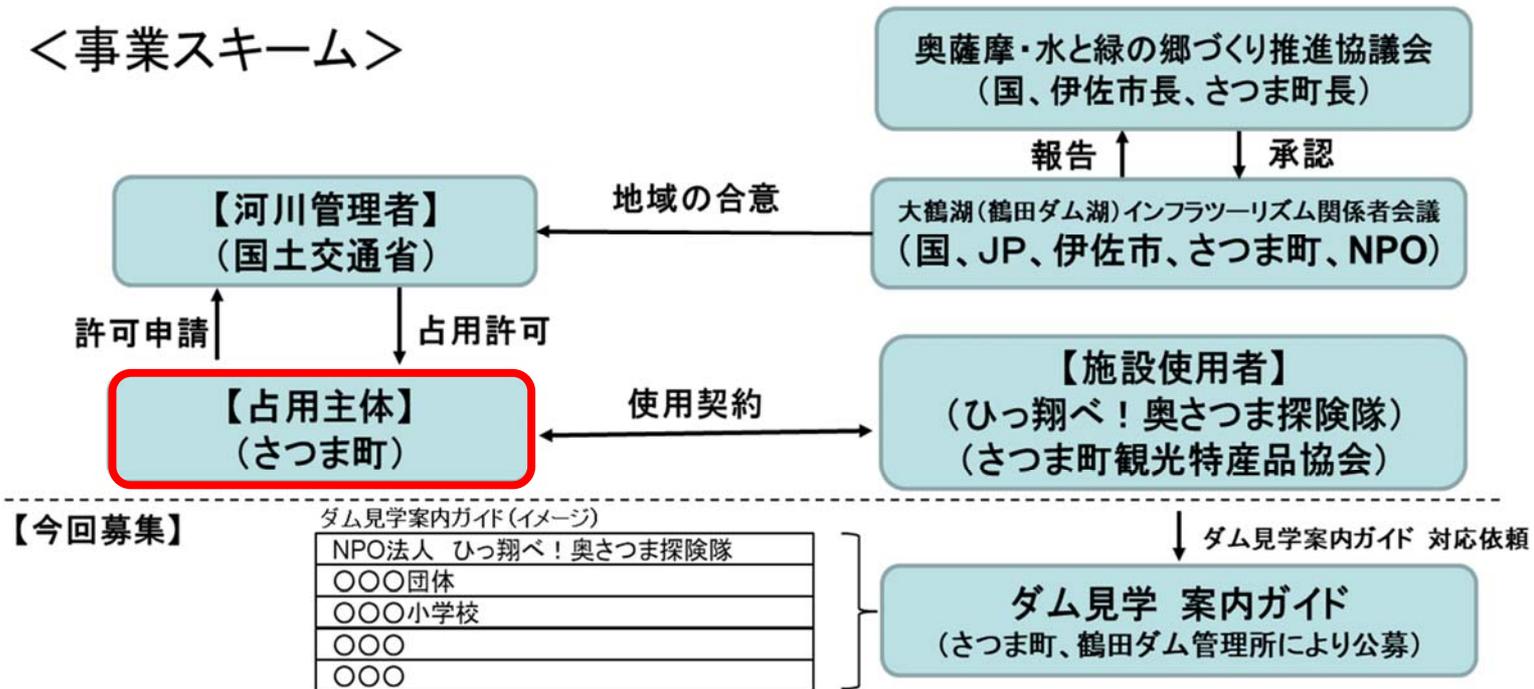


13

# 河川空間のオープン化指定（令和5年10月）

- 鹿児島県ではじめての指定。
- ダム見学（河川管理施設の見学）は九州ではじめて。

## <事業スキーム>



## 鶴田ダム ダム見学対応状況



## 見どころ① 社会科の学習（治水、発電、土木技術）



16

## 見どころ② 九州最大級のダム 大迫力を直下で体感



17

### 見どころ③ 大迫力の毎秒150トン放流を間近で堪能



18

### 見どころ③ 大迫力の毎秒150トン放流を間近で堪能



19

### 見どころ③ 大迫力の毎秒150トン放流を間近で堪能



20

### 見どころ③ 大迫力の毎秒150トン放流を間近で堪能



21

## 見どころ④ ダム内部に潜入 神秘的な空間を満喫



22

## 見どころ⑤ ゆうゆう館でまったりダムカレーを堪能



大鶴ゆうゆう館で提供される「ダムカレー」と「ダムチャーハン」



23



24

## 鶴田ダム見学の運用ルール

- 1) 実施主体 : さつま町「川内川大鶴ゆうゆう館」の管理事業にて実施  
指定管理者: NPO法人 ひっ翔べ！奥さつま探険隊  
サポート : 鶴田ダム管理所
- 2) 見学日時 : 平日及び**第2、第4日曜日**  
・午前: 11:00～12:00  
・午後: 14:00～15:00 ※約1時間
- 3) 予 約 : NPO法人 ひっ翔べ！奥さつま探険隊ホームページより予約  
※希望日の最低2週間前までに予約
- 4) 集合場所 : 鹿児島県薩摩郡さつま町神子3988-2 川内川大鶴ゆうゆう館前
- 5) 料 金 : 1) 見学 **1,000円/1名**  
※子供(高校生以下)は無料。大人同伴が条件。  
※団体割引あり(26名以上)  
2) 学校関係の社会科見学は、これまでどおり無料。(平日のみ)

# 河川空間オープン化記念イベント 秋の大鶴湖まつり開催

○11月26日(日) 秋の大鶴湖まつりを開催し、地元から好評いただきました。今後も、通常のダム見学とあわせて、秋の奥薩摩の名物行事として関係者と連携しながら、地域振興・活躍の場の創出・防災力強化を目標に継続していきます。

**鶴田ダム**

## 秋の大鶴湖まつり in 2023

河川空間のオープン化 第一イベント

2023.11.26(日) 9:30~16:30

河川空間のオープン化とは？  
 鶴田ダムの「ダム」は、水害防止だけでなく、水力発電、灌漑、上水道の供給にも活用されています。また、ダムには、水質浄化、生態系保護、防災力強化などの役割があります。今回のイベントでは、ダムに関する様々な情報を提供し、地域の魅力を発信していきます。

放流を普段立ち入れないコンクリート広場から見られます！

1 **ダム放流見学** (河川空間のオープン化)

- 入場料：500円/人 (高校生以下無料)
- 放流時間：1回目 10:00～10:20  
2回目 11:30～11:50  
3回目 13:00～13:20  
4回目 14:00～14:20

予約不要

2 **ダム堤体内見学(+放流見学)** (河川空間のオープン化)

堤体内テラス(3階展望所)から「ダム放流見学」よりも放流をもっと間近に見られます！

- 入場料：1,000円/人
- 見学時間：1回目 9:30～10:30  
2回目 10:30～11:30  
3回目 12:30～13:30  
4回目 13:30～14:30

要予約 (11月24日まで)

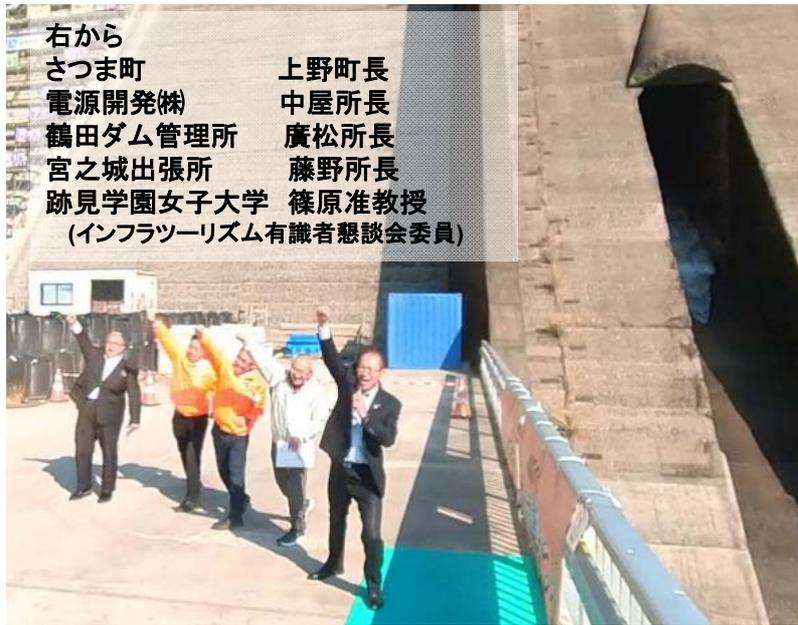
3 **大鶴湖遊覧船**

- 乗船料：おとな 2,000円/人  
子ども(小中学生) 1,000円/人
- 乗船時間：10:00～15:00 30分内に出航

予約不要 先着順受付

※本イベントは、ゲート等点検のための点検放流に合わせて行っています。

## (開会セレモニー)



右から  
 さつま町 上野町長  
 電源開発(株) 中屋所長  
 鶴田ダム管理所 廣松所長  
 宮之城出張所 藤野所長  
 跡見学園女子大学 篠原准教授  
 (インフラツーリズム有識者懇談会委員)

- 参加者数：約400人
- 主催者：大鶴湖(鶴田ダム湖)インフラツーリズム関係者会議 (鶴田ダム管理所、川内川河川事務所、さつま町、伊佐市、電源開発(株) ひっ跳べ！奥さつま探険隊 バイオマスワークあったらし会 伊佐の風)

# さつま町観光振興基本計画 インフラツーリズムの推進

## 【施策⑭】インフラツーリズムの推進



国土交通省と連携しながら、鶴田ダムを核としたダム点検放流をはじめ、インフラツーリズム<sup>※</sup>見学ツアー、ダムエイジング焼酎プロジェクトへの取組など川内川流域観光を進めています。

今後において、小中学生に向け教育旅行プログラムや建設・治水技術を学ぶ専門性の高い企画など特別感や多彩なツアー設定など関係機関と連携を図りながら、充実に努めます。

観光拠点をつなぐツアーの企画など、観光客が地域を周遊する稼ぐ観光の取組を推進し、地域全域に効果を波及させていきます。



ダム見学会 (小学生社会教育)



インフラツーリズム風景

- インフラツーリズム見学ツアー、ダムエイジング焼酎プロジェクトの充実
- 小中学生に向け教育旅行プログラムや専門性の高い企画など特別感や多彩なツアー設定

### 1) さつま町の観光に関する課題

さつま町には、魅力的な観光資源が数多くあるものの、県内の観光地と比較すると知名度が高いとは言えず、観光客が旅行先として選択するインセンティブを付与しきれていない状況である。

また、本町への観光客の多くは宿泊を伴わない通過型となっており、周遊性や滞在型による観光客の獲得が課題となっている。

### 2) 目的

西日本最大級の重力式コンクリートダムである鶴田ダムを中心に周遊性を図るとともに、ここでしか体験できない感動を味わってもらい、滞在型の事業実施により県内外からの誘客を図る。

### 3) 事業内容

旅行会社等が企画したインフラツアーに対し、特産品（薩摩のさつま等）を進呈することで町をPRし、ダム点検放流に合わせた遊覧イベント、季節の移り変わりが一望できる展望台の再整備により、本町独自の魅力を堪能してもらう。

また、ダム監査廊で保管しているエイジング焼酎を町内の旅館等を通じて、宿泊者へ振る舞い、翌年度以降には宿泊者自身が保管した焼酎を堪能してもらうことで、持続可能なリピート事業を展開する。さらに近隣市との連携により奥薩摩への誘客を図る。

## 今後の取り組み（鶴田ダム周辺施設や近隣自治体との連携）

(○分、○km)  
※鶴田ダムまでの車時間、距離

